



# 日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

JANUARY 2020  
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 54 no. 1

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

## New Year Message

Mark Gresham

In last year's message I highlighted the idea of diversity... both in society and in our organization. The year 2019 was certainly characterized by a wide variety of people who came to Japan for the wildly-successful Rugby World Cup just a couple of months ago. It was very impressive, not just to me but to the world at large, to witness such a crowd of non-Japanese who were welcomed with the wonderful hospitality that only Japan can offer. I have no idea how many Namibians or Samoans actually came to watch and support their national teams but the number of Japanese supporters of their teams was, frankly, amazing.



And so we enter 2020 — the year of the Tokyo Olympics when once again thousands of foreign visitors will come to Japan to experience that same “omotenashi?” that we saw with the RWC. I can't help but wonder about and be proud of the role our businesses have played — indirectly, of course — in the internationalization of Japan through the printed and digital dissemination of language, culture and learning in English and other tongues. It is truly satisfying to think that we have all somehow made a difference.

As for JAIP-related issues . . . as I write we are preparing for the first JAIP seminar in a rather long time. Of course, as you are reading this it will already have taken place and I can only hope that it was as interesting and as successful as we hoped it would be. With educational institutions in countries such as the UK implementing policies that will

require Open Access for books from some not-to-distant date it's important for us to know how academic publishing is likely to change and what effect that might have on our businesses in Japan, even though OA is not yet mandated here. I recently attended a workshop where several editors from US university presses discussed OA in their own publishing and they were very reassuring that it does not mean the end of the printed book for sale. In fact, they could point to some cases where the availability of a book via OA actually supported larger sales of the printed book. In any case, this is one of many topics that our industry will need to come to terms with. Perhaps you have others topics you'd like to see addressed in a JAIP seminar? If so, please do let us know.

Happy New Year!

# 理事会報告 2019年11月27日(水)

出席(敬称略) グレシヤム、河村、山川、阿部、総務委員長、事務局

## 1. 予算状況

事務局より10月末(7か月経過)時点での予算状況が報告された。会費未払いが2-3社あるが、概ね予定通りの進捗である。事務局より、協会運営に必要な書類のバックアップデータが入ったハードディスクをPCに接続して使用する必要がある、そのため接続キットを購入したい旨の提案があり、協議をした結果全員一致でこれを承認した。2万円程度を雑費より支出する。また、神保町ブックフェアのワゴン代を立替えたため、臨時会計▲245,000円が計上されているが、入金したら相殺される予定。

## 2. 総会に向けて

### 定款改定について

定款に定められているところによると、2期4年を務めた理事は次の被選挙権がなく、2年に1度の選挙で半数を入れ替えることとなっており、これまで新しい理事が選出されるなど一定の効果を果たしてきたが、現在は会員数が減少し、理事総数が5人(選挙選出4人と推薦理事1人)となっている。今後もこの方式を維持するとした場合、再来年の選挙で経験のある理事が一斉に抜けることとなり、理事会運営が難しくなることが予想される。そのため、定款に定められた理事の選出方法や任期等について、総務委員会において理事の任期や予算責任などを含めて確認及び検討を行い、改めて理事会に現状に即した定款の変更案を提案することとした。定款の変更は2020年度の総会において承認が必要である。

## 3. 委員会報告

### ・総務委員会

10月10日(木)に開催。予算報告(確認)とセミナー内容の確定を行った。

#### <セミナーについて>

現在までの申し込みは書協より2名、当協会内から3名。会場代(63,000円)、講師交通費(50,000円)を合わせて、10万円の予算を若干超過する見込みだが、今回は久しぶりの会員向けセミナー

開催であり、しっかり動員することを前提としてこのまま実行する。会員外の参加がある場合は若干ではあるが参加費による収入が見込める。12月5日(木)までに申込状況を確認し、必要に応じて各社協力して動員を行う。山川理事が12/10に講師の天野氏を訪問し、最終打合せを行う予定となっている。

### ・メディア広報委員会

12月5日(木)に委員会を開催予定。新年号の編集会議を行う。

### ・文化厚生委員会

12月17日(火)にボウリング大会を開催予定。現在は参加者が10名から15名程度のことが多く、参加者が増えることを期待している。2年くらい前は25名程の参加があった。年内の美術館や映画関係のイベントは予定されていない。

### ・事業委員会

10月にバーゲンに2回参加した。

10月26日(土)、27日(日) 神保町ブックフェスティバル

11月8日(金)、9日(土) 洋書まつり(古書組合@東京古書会館)

JAIPが洋書祭りに参加したのは12年前の2007年が最後。今回のJAIP売上は25万円ほど。

(古書は売れたものが売れる。例えばペーパーバックの売れ残ったものというのは、そもそも誰も買わなかったもの。定番商品などを選定した方がよく売れるのではないかと思われる。その他、美術系は良く売れたが、学術書はあまり売れなかった。)

## 4.

### 次回予定

1月10日(金) 賀詞交換会

1月 総務委員会(理事会前に開催)

1月 理事会(総務委員会後に開催)

## 神保町ブックフェスティバル

神保町ブックフェスティバルへの参加も今年で3回目となり、10月26日(土)・27日(日)の両日に出展しました。初日は終了間際雨に見舞われ、15分早めに終了してしまいましたが、それを除けば滞りなく終えることができました。

参加したのは、絵本の家・フランス図書・MHM・三善・丸善雄松堂の5社でした(敬称略・ワゴン台数順)。

新文化の記事によると、「昨日とも秋晴れに恵まれ、来場者数は昨年よりも多かったようだ。出展した出版社は158社で、過去最多の247ブースが軒を連ねた。謝恩価格で割引販売する「本の得々市」では老若男女、様々な世代の来場者が本を見定めていた。」とあります(2019年10月31日号\_3面)。

確かに初日の人出の多さは私だけでなく、出展社みなさんが実感されておられました。おそらく前25日(金)が大雨だったため、その反動でみなさん来場(外出)されたのではないのでしょうか。

また、3年連続で同じ場所ですでたこと(フェスティバル事務局に感謝しかありません)で「昨年もここで買ったけど..」と言った声をいくつも聞き、東京国際ブックフェアの時もそうでしたが、一定の年数続けて出展しないと認知されないことを痛感しました。

そして、神保町三井ビルディング前の広場に児童書専用コーナーが設けられ、我々のワゴンが並んでいるところがちょうどそ



神保町ブックフェスティバル

こへ向かう通り道にあたっていたため、絵本の家さんのワゴンに多くの親子連れが来られ、その関心の高さにも驚きました。

結果は全社(5社・7台)2日間計で約130万円、いろいろな評価があると思いますが、昨年実績(5社・8台で約120万円)を上回っており、根気よく続けて出ること、実績を積み上げていければと考えます。

出展社のみならず、搬入出に尽力いただいたワタナベ流通のみなさん、本当にお疲れさまでした。

(丸善雄松堂株式会社 石谷 清)

## 洋書まつり

11月8日(金)、9日(土)の2日間、東京古書会館で開催された52回「洋書まつり」に参加させていただきました。

この「洋書まつり」は東京古書組合様が運営し、東西のさまざまな洋書を一堂に集めた、30年以上の歴史がある日本最大級の洋書バーゲンセールです。今回はグレシャム理事長からの紹介で、MHM、丸善雄松堂、三善の3社が古書組合とのコラボというかたちでの参加となりました(敬称略)。洋書協会としては2007年以来12年ぶりに久々の参加で、前日の7日午後に設営し、10本の什器での展開となりました。

多様なジャンルが揃う「洋書まつり」ですが、ビジュアル書、専門書、辞書、ペーパーバックなど、毎年楽しみにして来られるお客様も多いとのこと。特に初日は大勢の方が列を作ってオープンを待っており、お客様の熱気が伝わってきました。言語も英語、フランス語、ドイツ語などヨーロッパ系言語から、中国語をはじめアジアから中東の言語まで、多くの書籍が出品されております。

レジ前の中央に置かれた数台のテーブルには、お客様が選書した購入前の書籍がうす高く積み、椅子に腰かけ時間をかけて一冊ずつ内容を吟味し、まとめ買いも多く、中には一人で2~3箱購入される方も多く見受けられました。



洋書まつり

運営については参加各社が会計などの作業を分担し、挟み込んだスリップをもとに売上集計をします。古書組合様からは、洋書協会とのコラボで2日目の来場者が増えたと言っていました。河野書店様をはじめ東京古書組合の出展各社の皆様には大変お世話になりました。

売上は3社で約25万円でしたが、今後も参加できるのであれば、回数を重ねることでお客様と売上が増えるのではないかと期待しております。

(株式会社三善 阿部英徳)

## 海外ニュース

### New York Times 誌が選ぶ 2019 年ベストブック 10 冊

**Julia Phillips, *Disappearing Earth*, Knopf, 2019【小説】**  
デビュー作となる本書は、ロシアのカムチャッカ半島の町で二人の少女が行方不明になるところから始まる。少女たちの失踪を背景に、町の様々な女性たちの生き様が重なり合い、響きあうように描かれていく。それぞれがざらざらとした質感を持つストーリーは、次第に女性たちがこの事件によって、いかに個人的に、文化的に、あるいは感情的に傷ついていったかを露わにしていく。

**Ben Lerner, *The Topeka School*, Farrar, Straus & Giroux, 2019【小説】**

*Leaving the Atocha Station, 10:04*に続くベン・ラーナーの三作目の本書は、一作目の主人公Adam Gordonを再び主役に迎え、今度は彼の高校時代を描いている。今回は、心療内科クリニックで働く彼の両親や、認知障害を持つ元クラスメートの姿も描かれている。ラーナーの小説にはいつも、オーケストラの作曲家のような感性や、腹話術師の声域の広さ、民族誌的な調和とでもいうような魅力的な要素がまつまっている。

**Ted Chiang, *Exhalation*, Knopf, 2019【小説】**

9つのすばらしく美しい短編小説は、すべてタイムトラベルに関係している。この本を読んでいると、まるでディナーの席で友人から懇切丁寧に科学理論を教えてもらっているような気分になる。それぞれの、綿密に考察し、あざやかに作りこまれた話には、哲学的な問いが含まれている。

**Valeria Luiselli, *Lost Children Archive*, Knopf, 2019【小説】**

メキシコ出身の作者の3冊目の——初めて英語で書かれた——小説は、保護者のいない子供たちが、国境を越え、死に直面し、あるいは抑留され、あるいは追放されるという苦境を背景に展開される。ある夫婦とその二人の子供は、ニューヨークからメキシコ国境を目指して旅している。妻のほうが、国境を越えるときにはぐれてしまった娘を探すメキシコ人の移民を助けようとするが、そのことで夫婦の関係は崩壊の危機に瀕する。作者は、消えた子供たちのことを描きながら同時に、物語を語ることや語り手についてきわめて意識的にこの実験的な小説を書きあげている。

**Kevin Barry, *Night Boat to Tangier*, Doubleday, 2019【小説】**

スペインの海岸のとあるさびれたフェリー発着所で、鋭い叙情と哀切な哲学との遭遇などどれも期待しないだろう。しかしBarryの小説のアイルランド人ギャング二人のおかげで、きわどく楽しい物語と、たびたび呼び起こされる痛みを伴う記憶とともに、その二つの遭遇は実現する。ある若い女を待つ二人の男の話は、ウィットにとんだ新しい「ゴドーを待ちながら」のようだ。

**Patrick Radden Keefe, *Say Nothing*, Doubleday, 2019【ノンフィクション】**

1972年、38歳の未亡人で10歳の子どもの母であるJean McConvilleは、ベルファストの自宅からマスクをした侵入者によって連れ去られた。この細部まで正確に記録された本書で、KeefeはMcConvilleの殺人事件を北アイルランド問題という歴史のプリズムとして用いている。

**Leo Damrosch, *The Club*, Yale University Press, 2019【ノンフィクション】**

画家のジョシュア・レイノルズは、最近落ちこんでいる友人のサミュエル・ジョンソンを励まそうとただけだった。毎週金曜日の夜、ロンドンの「タークス・ヘッド」というパブで開かれるようになった集まりが、18世紀後半のイギリスの著名人がつどう魅力的な「クラブ」になるなど、だれが想像しただろうか？ 著者は、ジョンソンとレイノルズのほかに、エドワード・バーク、アダム・スミス、エドワード・ギボン、ジェイムズ・ボズウェルなど錚々たる顔ぶれの華やかな人生の一端を垣間見せてくれる。

**Sarah M. Broom, *The Yellow House*, Grove Press, 2019【ノンフィクション】**

ニューオーリンズで育った著者の回顧録である本書は、口述史であり、町の歴史であり、古き良き生活の賛美でもあるが、著者の家が地図から消滅するのに加担した貪欲、差別、無関心、そしてお粗末な都市計画を最大限告発している。

**Rachel Louise Snyder, *No Visible Bruises*, Bloomsbury, 2019【ノンフィクション】**

本書は、WHOが「蔓延する世界の健康問題」と名付けたドメスティックバイオレンス (DV) についての、著者の綿密な調査報告書である。著者はよく知られている偏見や思い込み (接近禁止命令が唯一の対応策、加害者は絶対に変わらない、等) の誤りを正し、両方の観点から人々の生と死を見事に描き出している。

**Adam Higginbotham, *Midnight in Chernobyl*, Simon & Schuster, 2019【ノンフィクション】**

1986年4月に起こったチェルノブイリ原発事故について書かれた本書は、緊張感あふれるスリラーを読んでいるような気にさせる科学技術に関する貴重な記録である。詳細な描写と鮮やかな人物像により、あきれるほど愚かな物語は、ミスにつぐミス、誤算につぐ誤算が重なり、不可避的に未曾有の大災害へと突き進んでいく。

(New York Times Online, November 22, 2019 より適宜抄訳)

情報提供:MHM 遠藤尚子)



# 我が社・わが街

## 第21回 神田神保町(2)

株式会社三浦書店

三浦 文雄

弊社は、1972年(時代背景としては札幌オリンピックであったり、第一次田中角栄内閣の頃(石原慎太郎著「天才」はオススメです))の春、現在の神田猿樂町にて創業し、以来主に独語・仏語・英語の法律書籍を扱っており、大学の先生方や図書館にお取り引きをいただいております。

創業と同時に新築だった駿河ビル6階の1番小さい部屋に事務所を構え、当時はまだエアコンもなかったので、夏の暑い時期には近所の氷屋さんから角氷を買って涼を得ていたこともあったそうです。資金も無かったので書棚は友人の建築士に板とブロックで設えてもらいました。そんな両親がふたりで始めた三浦書店でしたが、その後は時代背景にも助けられて地道に業績を伸ばし、駿河ビル内でも少しずつ広い部屋へ移っていくことが出来ました。お世話になった駿河ビルも35年の月日で老朽化し取り壊すことに。現在の事務所へはその後2回の引っ越しを経ることになります。店舗ではなく事務所ではございますが、近くへお越しの際は是非お気軽にお立ち寄り下さい。

さて、本やカレーの街として今も有名な神保町ではありませんが、最近では、チェーン店やぱっと出の店が出店しては潰れ、潰れては出店したりして、変化の目まぐるしい部分もあります。そんな中、この度12月1日に約半年の改修を終えて営業再開をした「山の上ホテル」について少しだけご紹介しようと思います。(まだ宿泊をしたことはないのでレストランの紹介のみとなります。) 遍く日本に多くの重要文化財を遺したヴォーリズ建築であることから十分にその価値がうかがわれますこのホテル、三島由紀夫が「はやりすぎたりしませんやうに」と願ったせいか、さほど流行もせず現在も営業を続けておりますが、最近のオーナーチェンジや今回のリフォームもあり色々変わったなあという印象です。今回の記事を執筆するにあたり、慌てて3回ほど足を運んでみましたが、知った顔のスタッフさんも戻っていたりで安心しました。

中国料理の「新北京」はこどもの頃からお世話になっており、父の話によると昔は中国から本場の料理人が来ていたので本当に美味しかったそうです。当時は日本で5年も働けば中国へ戻ってから自分の店を持てるくらい稼げたようでしたので実力のある料理人も呼べたとか。今でも大事な方にお越しいただいた時や忘年会の際、真っ先に思い浮かぶのはやはり「新北京」です。

次に「コーヒーパーラー・ヒルトップ」へも天気も気分も良い日にはたまにランチを食べに行きます。こちらには池波正太郎の描いた絵が飾られており、こういう値段の付けられないような貴重な資産を持つ山の上ホテルはやはり、素晴らしいホテルだと改めて思います。

「てんぷら山の上」はもちろん上等なてんぷらをいただける名店ですが、懐が暖かい時にしか味わえないので今回は割愛させていただきます。どうしても気になる方はホームページをご覧ください「へえ」と驚かれて下さい。

山の上ホテルから教わった一番大切な事は、やはりホスピタリティでしょうか。同じ商品が似たような価格だったときに「やっぱり三浦書店から買いたいな」と選んでいただけるように、今年も精進して参ります。学術研究への貢献という非常にやりがいのある仕事を一生懸命に楽しみながら、これからも皆様と続けていきたいと強く願っております。



# 海外出張・海外見本市の視察を全力サポート！

海外出張・見本市の手配は、ジェイワールドトラベルにお任せください！

“専任スタッフ”がきめ細やかなサービスで快適な旅をお手伝いいたします。

## — International Book Fair —

>>>> 予約受付中 <<<<

開催日：2020年3月30日(月)～4月2日(木) / イタリア・ボローニャ <ボローニャ見本市会場>

### ボローニャ国際児童書籍展 ~Bologna Children's Book Fair~

旅行期間：2020年3月29日(日) 出発 6日間

宿泊ホテル：Grand Hotel Elite ★★★★★

旅行代金：235,000円～

※見本市会場までタクシーで約15分

開催日：2020年3月10日(火)～3月12日(木) / イギリス・ロンドン <オリンピア見本市会場>

### ロンドン国際書籍展 ~The London Book Fair~

旅行期間：2020年3月09日(月) 出発 5日間

宿泊ホテル：Cophorne Tara Hotel London Kensington ★★★★★

旅行代金：199,000円～

※見本市会場まで最寄り駅から地下鉄で1駅

開催日：2020年3月20日(金)～3月23日(月) / フランス・パリ <ポルトドベルサイユ見本市会場>

### パリ書籍展 ~Salon du Livre de Paris~

旅行期間：2020年3月19日(木) 出発 5日間

宿泊ホテル：Mercure Opera Garnier ★★★★★

旅行代金：199,000円～

※見本市会場まで最寄り駅から地下鉄1本

開催日：2020年5月27日(水)～5月29日(金) / アメリカ・ニューヨーク <ジャヴィッツセンター>

### 全米書籍展 ~BookExpo America~

旅行期間：2020年5月27日(水) 出発 5日間

宿泊ホテル：Radisson Hotel New York Times Square ★★★★★

旅行代金：235,000円～

※見本市会場まで徒歩約15分

※New York Rights fairが同時期に開催予定です。

開催日：2020年10月14日(水)～10月18日(日) / ドイツ・フランクフルト <メッセ フランクフルト>

### 【企画中】フランクフルト書籍見本市 ~Frankfurt Book Fair~

※視察プランは現在企画中ですが、お見積りは随時受け付けておりますのでお問い合わせください。

また、香港、北京、台湾、韓国など、世界のブックフェアも取り扱っております。

上記コース以外のホテルプランもございますので、お気軽にお問合せ下さいませ。

ジェイワールドトラベルでは、お客様のご希望やニーズに合わせまして、最適なプランをご提案し、

お問合せからご帰国までをサポート致します。

## お問合せ・旅行手配



JATA正会員 / 観光庁長官登録旅行業 第1359号

## 株式会社ジェイワールドトラベル

お問合せ

Tel 03-3402-9955

〒107-0062 東京都港区南青山2-5-17 ポーラ青山ビル6F  
URL [www.jw-trvl.co.jp/](http://www.jw-trvl.co.jp/) Email [tet@jw-trvl.co.jp](mailto:tet@jw-trvl.co.jp) 担当：藤代

日本洋書協会会報 vol.54 No.1(通算562号) 発行日2020年1月1日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523

URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:[office@jaip.jp](mailto:office@jaip.jp)